

大豆栽培の農作業手順について

研修資料 H27.7.4

1 大豆栽培に適した土壌条件

最適 pH 微酸性 6.0～6.5 大豆・枝豆

平成 27 年 6 月 29 日計測時点では pH4.8 程度

苦土石灰を 10 a 当たり 40 kg 全面散布する。前作によっても条件が異なる

※豊かな実りは土づくりが決め手

(中性で生育) 6.5～7.0 一般的にはハウレンソウ

(弱酸性) 5.5～6.5 水稻・キャベツ・大根

(酸性) 5.0～5.5 お茶

2 作業手順(なにから始めるか)

畑作り・耕耘→播種・施肥→除草→中耕・培土→病虫害防除→収穫刈取り→乾燥→脱穀
→選別

※耕耘は細かくなるように丁寧にすること

3 播種

品種 鳩山在来(黒大豆)・青山在来・丹波黒豆などを予定

播種の時期 品種によって多少播種時期が異なる(埼玉県の奨励品種のエンレイ、タチナガハなどは 6 月下旬～7 月上旬)

畝幅と株間 株間 15 cm 程度・畝間 70～80 cm 程度(生育途中で中耕管理機を使用するので畝幅は考慮して播種する)

肥料 化成肥料 10 a 当たり 20 kg 程度(大豆は根粒窒素固定能力が高い)

種子の準備 病害中に罹っていないもの

ハトなどの食害対策

雑草対策 播種後除草剤を全面散布 薬剤としてはラッソー乳剤、ロロックスの混合剤

※播種適期が梅雨と重なり湿害があり、苗立ちがうまくいけば、その大豆作りは半分以上成功したと言える位重要な作業である

4 生育中の管理

中耕の目的は畝間の除草

培土の目的は倒伏防止・排水

病虫害の防除 病虫害防除は圃場をよく観察し発生状況に応じて適宜行う。天候不順により年ごとに病虫害の発生が異なることが多い

雑草の除去 コンバイン収穫における収穫ロス、収穫量と品質を低下する

※日常の観察が大事である

5 収穫

刈取りの適期 茎が十分乾いてから、茎が「ポキッ」折れるくらいになってから

刈取りの方法 剪定バサミ

乾燥 しただて方式

※葉が落葉し、大豆の莢が大部分変色し、茎全体が乾燥 させることが大事

6 脱穀

方法 昔ながらの方法でクルリ棒などを使用して

※地域で使用していた道具などを使用しての脱穀作業

7 選別

機械選別 唐箕など

手選別 一粒一粒目視で選り分ける

8 枝豆

枝豆については、熟期の状況により適宜収穫対応する